

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は玄関を入れて正面に掲載し、各ユニットのスローガンも合わせて掲載している。ユニットスローガンは各ユニットの職員の目に入りやすい位置に貼ってあり職員も理念の実現に努力している。	玄関正面の目につき易い所に法人基本理念、運営方針、各ユニットのスローガン・目標を掲示し、来訪者にも分かるようにし、職員間の共有と実践に繋げている。家族には入居時に理念などを基にホームでの1日の過ごし方等も含めた支援内容について説明している。また、職員全体会議やユニット会議で実践状況を振り返り、理念などに沿って実践しているか職員同士で確認している。不適切なケアについては管理者とユニットリーダーで話し合い、会議などで注意を促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受け入れを今年から開始したが、施設内でコロナウィルス等感染症のため、延期となってしまっている。	開設以来自治会費を納め、市の広報や地区の配布物などから情報を得て、参加出来る行事には参加し地域の一員として活動している。新型コロナ禍が長引き、殆どの地域行事が中止という状況が未だ続いており、再開されれば参加したいとの意向を持っている。そうした中、一昨年度は地域の中学生の来訪があり、ホームの周りの草取りをしていただき利用者も窓から眺め、生徒達に感謝をしている。コロナ前は、地区の住民自治協議会との連携も深め、支所で行われる中学生、地区の皆さんの演奏会やバザーにも招待されたことから、再開が待たれるところとなっている。保育園児との交流や各種ボランティアの来訪についても新型コロナの影響を受け中止の状況が続いているが、コロナ後を踏まえ関係継続を図るべく連絡を取れるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地区会長さんや民生委員さんに施設の状況等を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催としている。開催時は施設の活動状況や事故・ヒヤリ報告などをさせていただき、皆様からご意見、ご指摘を頂き今後の改善に役立てている。	昨年5月の新型コロナ5類移行前の4月から対面での開催となり、今年度は4月、6月、8月、10月、12月の5回は参集して行い、2月のみ新型コロナ感染回避のため書面で開催している。家族代表、区長、民生児童委員、地域包括支援センター職員、市高齢者活躍支援課職員などが参加し、利用状況、行事、今後の予定、ヒヤリハット・事故等の報告後、意見・助言などを頂き、サービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に運営推進会議の場において、協力体制やサービスの向上、地域への貢献について意見交換を行っている。	市高齢者活躍支援課には事故報告やコロナ、インフルエンザ感染状況などを報告し、連携を取っている。地域包括支援センターとは入居状況を報告し、入居についての紹介も頂いている。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し職員が様子を話し対応している。家族からの依頼により、認定更新手続きの代行をすることもある。あんしん(介護)相談員の来訪も現在、市全体として中止状態になっているが、再開されたら受け入れをする予定である。	

グループホーム愛ランドわたくし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議で身体拘束についての研修を行い、職員の身体拘束をしないケアについての理解を深めている。また玄関の施錠についてはご家族に了解を頂いている。	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。当ホームの運営規程、契約書、重要事項説明書には「身体拘束・虐待の防止」について明記されており、利用者や家族に説明している。現在、ベッドから転落や転倒が危惧される方がおり、家族と相談の上、人感センサーについて使用しているが、経緯については記録し、状態によっては解除するなど、ユニット毎に定期的に見直しを行っている。車の通行が激しい幹線道路がホームの前を走っていることと現在拡張工事のため、安全確保という点から玄関は施錠している。現在対象となる方はいないが、帰宅願望の強い方がいる場合は話をよく聞き近隣を散歩したりして納得していただいている。更に、毎月の全体会議の中で身体拘束、虐待防止の勉強会を行って意識を高め、身体拘束をしないケアに繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議において虐待についての資料を配布し職員で読み合わせを行っている。終了後職員にチェックリストを配布し記入してもらったり、職員間で意見を言い合える環境を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議で研修会ができる体制を作り職員の学ぶ機会を持ちたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時は内容の説明や質問などに十分時間をとっている。看取りや料金、医療機関などについては詳しく説明を行い納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には面会時などに意見や要望を気軽に言っただけの雰囲気作りをしている。コロナ禍の中、電話での連絡が増えているがその時にも家族の意見や要望をお聞きすることができている。	現在、家族の面会については、事前に予約をいただき、相談室で20分から30分間、2～3人ほどを目安に対面で実施しており、月に2回ほど来訪する家族もいる。また、遠方の家族とリモートで面談している利用者もいる。そうした中、利用者のホームでの生活の様子は毎月発行されるお便り「ひだまり通信」を担当職員からの手紙を添えて家族の元へ届け、喜ばれている。更に、法人のブログのコーナーにはホームの活動状況が詳しく掲載されている。新型コロナ禍が長引き、敬老会、夏祭り等への家族の参加も自粛状況が続く残念であるが、今後、感染状況を見ながら、行えるようになれば再開したいという意向を持っている。	

グループホーム愛ランドわたくし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議の場で職員の意見や要望を聞く時間を設けている。またいつでも意見や提案が聞ける雰囲気を作っている。	毎月3週目の集まり易い日を選び夕方、全体会議を行い、連絡事項、業務内容の検討、職員から出た意見の検討、各種勉強会を行い支援の向上に繋げている。また、2ヶ月に1回ユニット会議を開き、カンファレンス、身体拘束見直し検討会等を行っている。人事考課制度があり半年に1回目標を立て、自己評価の後、事務長、管理者による個人面談が行われ評価とともにモチベーションアップに繋げている。また、管理者は職員の話聞くことに注力し気持ち良く日々の業務に就いていただくよう心掛けている。更に、年度によってシートによるストレスチェックが行われることがあり、職員のメンタルヘルスにも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は適宜施設に顔を出し、職員の様子や勤務の様子、施設の状況を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て、外部研修の案内が来た時は研修案内を掲示し研修への機会を提案している。また外部研修してきた時は全体会議や回覧で資料を職員に提供し情報の共有をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区の地域包括支援センターの担当者が運営推進会議に出席していただき2ヶ月に一度施設の状況報告をし意見交換をしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人の様子や生活状況の把握を行い入所後は本人に係わる時間を持ちながら会話の中で本人の困っていることや要望などをお聞きするようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談の中で家族が困っていることや要望などをお聞きし、入所契約時にも御家族の思いをお聞きしサービスに活かせるようになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の思いをお聞きし、本人の状況を見ながら支援の内容を提案し、必要なサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の思いや不安なことを日々の生活の中で関わることで把握し、出来ることは本人に行っていたきながら出来る限り自立した生活が送れるよう対応している。		

グループホーム愛ランドわたくし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の様子や困ったことが起きた時は少しの変化など些細な事でもご家族に連絡し相談したりして情報を共有できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設内で個室にて面会をしていただいている。希望があれば、外出や外泊等を受け入れている。	現在、知人・友人の面会は少ないが、家族から了解をいただいている友人、知人の面会については家族と同様としており、相談室で20分間から30分間、2～3人ほどを目安に対面で実施している。携帯電話を持つ方がおり家族とSNS(LINE)で連絡を取り合っている。また、コロナ5類移行を受け、希望で自宅に戻られている方もいる。理美容については3ヶ月に1回、顔なじみとなった訪問美容師の来訪があり、希望に合わせてカットしていただいている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が話ができる環境を整え、関りが持てるようにしている。利用者同士のトラブルになりそうな時は職員が間に入り各自の話を聞きし解決している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設などに転居した場合は事前にアセスメントやサービス計画者などの情報を提供し情報を共有している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当を中心に利用者様と関わる中で本人の希望や意向等の把握が出来るように努めている。ユニット会議などで職員間で共有できるようにしている。	半数以上の利用者は意思表示の出来る状況であるが、数名の利用者は意思表示が難しい状況にあり、表情や行動を見たりして意向を把握し希望に沿えるよう取り組んでいる。読書や塗り絵、編み物など、入居前からの趣味やできることなどを継続してできるように働きかけている。また、入浴時や居室において1対1で話をする時間を大切に、一人ひとり思いを受け止めるよう心掛けている。そうした中、職員は、日頃の支援の中で気づいた事柄についてパソコンの介護記録に入力し、出勤時に確認し合い、意向に沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご家族や担当ケアマネジャー等から情報収集し、本人の生活歴や生活環境などを把握できるようにしている。また入所後も本人との会話の中でお話を聞いたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態は毎日のバイタル測定で健康状態の把握はしている。有する力等は本人に関わることで出来ることや困難な事が把握できる。一日の過ごし方は介護ソフトの記録で確認ができる。		

グループホーム愛ランドわたくし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を確認し、本人がこうしたいということを計画書に反映し作成している。ユニット会議の際に入居者一人ひとりの事を職員みんなで考えている。	職員は1～2名の利用者を担当し、家族への手紙の作成、居室管理、生活用品の補充、誕生日会の計画等を行っている。一人ひとりの利用者について気づいた事柄はユニット会議で報告し、担当職員を中心に随時モニタリングを行い、家族の希望も加味しながらケアマネジャーがプランの作成を行っている。入居時には1ヶ月間様子を見て状況を判断し本プランの作成に繋げ、基本的に状態が安定していれば短期目標を6ヶ月とし、また、長期目標は1年とし、その期間での見直しもを行い、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行っている。状態が変わった時には、随時、変更を加え、一人ひとりに合った支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護ソフトのケア記録に記録している。重要なことは申し送りに記録し職員は就業前に必ず確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに基づいた対応をその都度考え実行し、見直しをユニット職員で行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は近隣で行っていた菊花展を見に行きました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族や本人の意見をお聞きして主治医を決めさせていただいている。	入居時に医療機関についての希望を聞きホームとしての取り組みについて説明している。現在、入居前からのかかりつけ医利用の方がおり、家族が月1回の受診に同行しホームからの電話で状態を説明したり情報提供書を持参していただいている。他の多くの方はホーム提携医の月2回の往診で対応しており、オンコールでの対応も可能となっている。また、現在、非常勤看護師が週1回勤務し健康管理に努めているが、訪問看護師との連携についても検討している。薬は協力薬局より配達、配薬され、投薬前に職員が確認し2重チェックの体制がとられている。歯科については必要に応じ協力歯科の往診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	パートの看護職から入居者の健康状態についてのアドバイスをいただいている。		

グループホーム愛ランドわたくし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は病院の看護師やケースワーカーなどと連絡を取り合い、状態の把握、退院に向けての話し合いを行っている。コロナ禍の為面会に行くことが難しいので電話で確認をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化に関する指針を提示し看取りに関する理解と協力をお願いしている。家族と話し合い看取りの方針を決めている。	重度化した際の指針があり、利用契約時に家族に説明している。入浴が難しくなり終末期を迎えた時には家族、医師、ホーム職員で話し合いの場を設け、家族の意向を確認の上、医師の指示の下、改めて同意書にサインを頂き、法人内の特別養護老人ホームほかへの住み替えや医療行為を必要としない限りにおいて看取り支援に取り組んでいる。現管理者に交代してから、3名ほどの方の看取りをしており、家族からも感謝の言葉を頂いている。看取りのあった年度末には事業報告の一環として、看取りについても振り返る機会を持ち、経験を次年度以降に繋げるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルや緊急時の対応について連絡先の提示、連絡網を作成し緊急時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練は年2回行っている。台風被害のあった時は向かい側のことぶきの家にご協力いただき避難させてもらった。	消防署へ計画を提出し年2回防災訓練を行っている。昨年7月には、消防署員参加の下、火災と夜間の想定で、全利用者が外へ移動しての避難訓練を行い、合わせて初期消火訓練、通報訓練を実施している。また、地域との防災協定も締結されており区長等、地域の人々の理解も頂いている。今後、緊急連絡網の伝達訓練も定期的に行う予定をしている。備蓄は「米」「水」「レトルト食品」等3日分が用意されている。各ユニット非常口近くには職員用のヘルメットが備え付けられている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳やプライバシーを損なわないように声掛けに注意し、居室に入る時は必ず声を掛けてから入るようにしている。	毎月、虐待防止などの勉強会を行う中で、プライバシーに対する意識を高め支援に取り組んでいる。利用者一人ひとりに配慮をしながら、スピーチロック等の言葉遣いには特に気を配り、気持ち良く過ごしていただくようにしている。合わせて、排泄介助時には周りに解らないように声がけし、また、利用者の前では他の利用者のをほしように徹底している。呼び掛けは希望に合わせて苗字か名前を「さん」付けでお呼びし、入室の際には「ノック」と「失礼します」の声掛けをするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かやりたいことがあるのかお聞きしながら出来る限りそれに応えられるよう努力している。例えば食事の味付けや飲み物の好みをお聞きし、本人が自己決定できるよういくつかの案を提案し本人に決めていただいている。		

グループホーム愛ランドわたくし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせてレクレーションや行事などへの参加に声掛けしている。食後は居室で休んでいただいたり共有スペースでテレビを見ていただいたり利用者様の希望をお聞きして対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で出来る方は準備などのお手伝いはさせていただき自分で行っていただいている。入浴の衣類は本人に確認しながら着替えを用意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食の盛り付けが出来る方にはお手伝いしていただいている。食前、食後のテーブル拭きや食器洗いなど出来る方にはお願いしている。行事で昼食作りをするときはお手伝いして頂いている。	自力で摂取できる方が三分の二強、一部介助の方が数名という状況で、一人ひとりに合わせ支援している。食事の形態についてはキザミ、トロミで対応する方もいる。法人の栄養士が季節感や行事を加味した献立を立て、昼食、夕食の副菜については法人の他施設の厨房で調理したものが配達され、「ご飯」「汁物」はホームで作られている。朝食については夜勤職員が調理している。そうした中、敬老会は「豪華弁当」をテイクアウトし、運動会には「焼きそば」や「お好み焼き」を作り、おやつには「ゼリー」「パンケーキ」「こねつけ」等を利用者と職員で賑やかに作り楽しんでいる。また、誕生日には手作りのケーキやスイーツでお祝いをしている。更に、外出に出掛けたり、ハンバーガーが食べたいとの希望から、テイクアウトして楽しんでいる。加えて、正月には「お汁粉」、クリスマスには「ショートケーキ」など行事に合わせて味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食量や水分量をケアチェック表に記録し把握している。利用者ごとの食量や形態を一覧表にしてキッチンに張り出し職員間で共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人1人洗面所に誘導し歯磨きをしていただいている。義歯を装着されている方は口腔ケア時に汚れを落として、夕食後は義歯を義歯ケースに入れ洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケアチェック表の排泄欄で排泄の様子を確認しトイレ誘導を行っている。排泄の状態などを会議で検討しパットの種類や失禁の少ない方の布パンツへの変更をしおむつの使用を減らしている。	自立の方が半数、一部介助の方が数名という状況である。起床時、食事前、おやつ時、就寝前などに定時誘導し、合わせて、ケアチェック表も参考に様子を見て声掛けを行い、可能な限りトイレで排泄できるようにしている。排泄状況をパソコンに入力し、排泄のパターンを把握し、一人ひとりに応じて対応している。排便については3日間ない場合は医師の指示の下、コントロールを行い、「お茶」「ジュース」「コーヒー」「牛乳」等、1日1,200ccの水分摂取に取り組み排便促進に繋げている。	

グループホーム愛ランドわたくし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ケアチェック表で排便の確認をしながら排便がない方については主治医より指導を受け対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週2回は入浴して頂いている。体調不良や外出などで入浴出来ない時は入浴の日を変更して対応している	見守りを受けつつほぼ自立している方が半数、一部介助の方が数名、全介助でシャワー浴の方が若干名となっている。入浴日を設定せず、また、入浴の時間帯も一人ひとりの状態に合わせて設定し介助しており、週2回、入浴を行っている。入浴拒否の方がいるが誘い方に工夫をして入浴していただくようにしている。入浴後にはスポーツドリンク等冷たい飲み物を楽しんでいただるように勧めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活習慣に基づいて居室で休みたいときに休んでいただいている。日中の活動量を増やし生活のリズムを整え夜間良眠出来るよう心掛けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルの中にお薬情報を綴って職員が随時確認できるようにしている。内服時には職員同士で確認しあい、内服後も袋の中に残っていないかの確認も行っている。状態に変化があった時は主治医に連絡し確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を把握し、洗濯物のたたみや手作業(ゴミ箱折り、貼りえ、新聞たたみなど)をして頂いたり、野菜の下ごしらえにも協力して頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中外出の機会が殆どない状態だが天気の良い時は玄関先にて外気浴をしている。お花見と紅葉狩りはあまり人が居ない場所を選んで車で出かけている。家族の希望があれば外出や外泊をして頂いている。	外出時、独歩の方が三分の二強で、歩行器・車いす使用の方が数名という状況である。天気の良い日にはホームの周りを散歩したり、玄関前のベンチに腰掛け外気浴を兼ねお茶を楽しんだりしている。また、地域には桜の名所があり花見に出掛け、近くのお寺で開催される菊花展の見物にも出向いている。新型コロナ禍が続き以前のような外出が難しいが、季節に合わせて1~2名の少人数に分かれ人出の少ない場所、時間を選び、花見や紅葉狩りを兼ねたドライブなどにも出掛け外気にふれたり、季節感を味わっていただくようにしている。職員が中心となってホームの畑で夏野菜を作り、利用者と共に収穫を楽しんでいる。	

グループホーム愛ランドわたくし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金の所持はされていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方はご家族と自由にお話をされている。家族に電話を掛けたいと言われる方にはこちらから繋いでいる。家族からの手紙が届いた時は本人にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに壁の貼り絵を作成し、季節感が味わえるように工夫している。共有スペースが過ごしやすいように室温の調整をしたり、午前、午後と換気を行って空気の入替えをしている。ユニット内は常に整理整頓をして居心地のよい環境になるよう努めている。	玄関前には外気浴用のベンチが準備されている。玄関正面には基本理念、運営方針が掲示され来訪者にも明確に示されている。玄関を中心にあじさいユニットとひまわりユニットに分かれており、両ユニットの真ん中にはガラス戸の中仕切りがあり、廊下も幅広く、それぞれのユニットを行き来できる。広いスペースの共用部分は天井も高く開放感が感じられ、一部は畳敷きでソファが置かれ、テレビを見ながらゆっくりと寛ぐことができる。トイレの各ユニットに3ヶ所あり、車椅子対応の広いスペースが確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士、話がしやすい環境になる様に配慮している。共有スペースにはソファを置き誰でも座ってテレビが見れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのものを居室に置いて頂き、家族の写真を飾ったり自分の愛用していたものを置いたり、テレビを置いたりしてくつろげる環境で過ごしていただいている。	整理整頓が行き届いた居室には大きなクローゼットが備え付けられており、電動ベッド、冷暖房エアコン、呼び出しコールなども設置されている。持ち込みは自由で、家族と相談の上、使い慣れたイス、テーブル、テレビ、仏壇等を、使い勝手よいように配置している居室がある。趣味の物を置き、家族の写真や自分の作品なども壁に飾り、色々なものに囲まれながら思い思いの生活を送っていることが窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行される方は手摺が設置されているのでつかまりながら歩いて頂いている。トイレの場所もわかるように張り紙をしてあり各居室には利用者様の名前が貼ってある。ベッドの位置も本人が動きやすいように位置を設定している。		